

宇治群島から得られた鹿児島県 2 例目のキビレカワハギ

畑 晴陵¹・本村浩之²¹ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-24 鹿児島大学大学院連合農学研究所² 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

■ はじめに

カワハギ科ウマヅラハギ属 *Thamnaconus* は雌雄ともに背鰭前部の背縁と臀鰭前部の腹縁が伸長すること、第 1 背鰭棘後側面の棘が側方を向くこと、腰骨の可動部が小さいこと、腹鰭が腰骨の後端に位置すること、頭長が体高とほぼ同長であること、尾柄部に小棘を欠くことなどの特徴をもち (Hutchins, 1977, 2001), 日本からはアズキウマヅラ *T. fijiensis* Hutchins and Matsuura, 1984, サラサハギ *T. hypargyreus* (Cope, 1871), キビレカワハギ *T. modestoides* (Barnard, 1927), ウマヅラハギ *T. modestus* (Günther, 1877), およびゴイシウマヅラハギ *T. tessellatus* (Günther, 1880) の 5 種が知られている (林・萩原, 2013)。

日本産ウマヅラハギ属のうち、ウマヅラハギとキビレカワハギの 2 種のみが鹿児島県における分布が報告されているが (徳留・川上, 1977; 鹿児島県衛生研究所, 1991; 仲島・松岡, 2005, 2006; 林・萩原, 2013; 鎗木, 2016), キビレカワハギの記録は、鎗木 (2016) がウマヅラハギとして種子島における分布を報告したものだけに限られる。

2015 年 12 月 9 日に薩摩半島西方に位置する宇治群島において 1 個体のキビレカワハギが釣獲さ

れた。本標本は同群島における本種の標本に基づく初めての記録となるため、ここに報告する。

■ 材料と方法

計数・計測方法は Matsuura (1980) を改変した Matsuura and Chiba (2007) にしたがった。標準体長は体長と表記し、体各部の計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm までおこなった。キビレカワハギの生鮮時の体色の記載は、固定前に撮影された宇治群島産標本 (KAUM-I. 83517) のカラー写真に基づく。標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村 (2009) に準拠した。本報告に用いた標本は、鹿児島大学総合研究博物館に保管されており、上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている。本報告中で用いられている研究機関略号は以下の通り：KAUM - 鹿児島大学総合研究博物館；MTUF - 東京海洋大学水産資料館；OMNH - 大阪市立自然史博物館。

■ 結果と考察

Thamnaconus modestoides (Barnard, 1927)

キビレカワハギ (Fig. 1)

標本 KAUM-I. 83517, 体長 255.5 mm, 鹿児島県宇治群島北方 (31°13'N, 129°27'E), 水深 138 m, 2015 年 12 月 9 日, 釣り, 小林憲史。

記載 背鰭条数 II, 35; 臀鰭条数 34; 胸鰭軟条数 13。

体各部測定値の体長に対する割合 (%) : 体高 38.0; 体幅 12.4; 頭長 28.7; 吻長 24.9; 吻端から第 1 背鰭起部までの距離 28.3; 吻端から臀鰭起部までの距離 63.4; 吻端から腹鰭起部までの距離 56.6;

Hata, H. and H. Motomura. 2017. First record of *Thamnaconus modestoides* (Tetraodontiformes: Monacanthidae) from the Uji Islands, Kagoshima Prefecture, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 43: 235-238.

✉ HH: the United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University, 1-21-24 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: k2795502@kadai.jp).



Fig. 1. Fresh specimen of *Thamnaconus modestoides* from the Uji Islands, Kagoshima Prefecture, Japan. KAUM-I. 83517, 255.5 mm SL.

第2背鰭基底長 35.4；臀鰭基底長 32.4；鰓孔長 8.8；眼径 7.4；眼隔域幅 8.5；第1背鰭棘長 18.8；背鰭最長軟条（第6軟条）長 16.3；臀鰭最長軟条（第7軟条）長 15.4；胸鰭最長軟条長 10.0（第2軟条）；背鰭1棘基底後端から第2背鰭起部までの長さ 26.0；尾鰭長 26.5；尾柄高 8.6；尾柄長 10.6。

体は前後方向に長い卵型で強く側扁する。体背縁は吻端から背鰭起部にかけて緩やかに上昇し、そこから尾鰭基底上端にかけて下降する。体腹縁は下顎先端から腹鰭起部にかけて下降し、そこから臀鰭起部にかけて急激に上昇する。臀鰭起部から尾鰭基底下端にかけての体腹縁は緩やかに上昇する。第1背鰭起部は瞳孔先端直上、第1背鰭基底後端は眼の後端よりも後方にそれぞれ位置する。第2背鰭起部は臀鰭起部よりも僅かに前方、第2背鰭基底後端は臀鰭第31軟条起部直上にそれぞれ位置する。第2背鰭の背縁は起部から第7軟条後端にかけて上昇し、そこから緩やかに下降する。胸鰭基底の上端と下端はいずれも眼の中央よりも後方に位置する。胸鰭後縁は丸みを帯び、胸鰭後端は第1背鰭鰭膜後端よりも後方に達する。胸鰭基底上端は口よりも下方に位置する。腰骨後端に

は左右2対の鱗からなる鞘状鱗を有し、その関節部は可動。臀鰭起部は第2背鰭第2軟条起部直下に、臀鰭基底後端は第2背鰭基底後端よりも後方にそれぞれ位置する。臀鰭の復縁は起部から第7軟条後端にかけて下降し、そこから緩やかに上昇する。尾鰭は円形に近く、後縁中央部は後方へ膨出する。肛門は正円形を呈し、臀鰭起部の前方に位置する。鰓孔は裂孔状を呈し、その後端は眼の中央よりも僅かに後方に位置し、先端は眼の先端よりも僅かに前方に位置する。眼および瞳孔はともに正円形。鼻孔は2対で前鼻孔と後鼻孔は互いに近接し、眼の前縁前方に位置する。前鼻孔および後鼻孔はともに前後方向に正円形。

色彩 生鮮時の色彩 体は一様に黄色がかかった灰白色を呈し、体背面から体側上部にかけては茶色がかかり、体側下部から体腹面は白色がかかる。体側後部は一様に黄色み強い。第1背鰭各棘は白色がかかった灰色。胸鰭は一様に黄色。第2背鰭と臀鰭の各軟条は白色がかかった黄色。第2背鰭と臀鰭の前部の鰭膜は乳白色。尾鰭各軟条は若草色を呈し、各軟条間の鰭膜は黒褐色。虹彩は金色を呈し、瞳孔は青みがかかった黒色。

分布 アフリカ南東岸, マダガスカル, チャゴス諸島, アンダマン諸島, 日本, 台湾, 香港, オーストラリア東岸・西岸, およびニューカレドニアに分布する (Hutchins, 2001; 林・萩原, 2013; Matsuura, 2014). 日本国内においては八丈島, 小笠原諸島, 神奈川県三浦半島, 三重県志摩市, 和歌山県南部, 高知県土佐清水市以布利, 愛媛県愛南町深浦, 兵庫県浜坂, 山口県日本海沿岸, 長崎県五島列島南西沖, および鹿児島県種子島から記録されていたが (Randall et al., 1997; 林・萩原, 2013; 鐘木, 2016), 本研究により, 鹿児島県宇治群島における分布が確認された.

備考 宇治群島産の標本は, 体が一様に灰色を呈し, 模様が無いこと, 臀鰭軟条数が34であること, 鰓孔が眼の前半部下方に位置すること, 腰骨後端に左右2対の鱗からなる鞘状鱗を有し, その関節部が可動であること, および体の後半部に小棘を欠くことなどが, 松浦 (1997) と林・萩原 (2013) によって報告されたキビレカワハギの標徴と一致したため, 本種と同定された.

キビレカワハギは腰骨後端に左右2対の鱗からなる鞘状鱗を有し, その関節部が可動であること, 体の後半部に小棘を欠くことなどによりウマヅラハギに類似するが, 体が一様に灰色を呈すること (ウマヅラハギでは不規則な雲状斑がある), 鰓孔が眼の前半部下方に位置する (鰓孔が眼の中央下方に位置する) ことで識別される (松浦, 1997; 林・萩原, 2013) (Fig. 2).

Thamnaconus modestoides は Zama and Yasuda (1979) によって小笠原近海から得られた2個体 (MTUF 23091, 体長 259.0 mm, MTUF 23775, 体長 230.0 mm) に基づき, 日本から初めて報告され, 同時に本種に対し, 和名キビレカワハギが提唱された. 小笠原諸島における本種の分布は, 菅野ほか (1980) や Randall et al. (1997) によっても報告されている. また, キビレカワハギは神奈川県三浦半島 (山田・工藤, 1997), 和歌山県白浜町 (松浦, 1997; 池田・中坊, 2015), みなべ町 (池田・中坊, 2015), 高知県土佐清水市以布利 (鐘, 2001), 九州西方の東シナ海 (Shinohara et al., 2005), および八丈島 (Senou et al., 2002) などからも報告されて



Fig. 2. Fresh specimen of *Thamnaconus modestus* from Kagoshima Bay, Kagoshima Prefecture, Japan. KAUM-I. 71405, 241.6 mm SL.

いる. また, 鈴木・細川 (1997) は兵庫県浜坂町釜屋から得られたキビレカワハギ1個体 (OMNH-P 8095, 体長 288.0 mm) を報告しており, これが本種の分布の北限と思われる.

なお, 鐘木 (2016) は種子島近海から得られたカワハギ科魚類の写真をウマヅラハギとして報告したが, 体が一様に灰色を呈し, 鰓孔が眼の前半部下方に位置することから, これはキビレカワハギであると考えられる. キビレカワハギの鹿児島県における記録はこれに限られ, これまで本種の宇治群島近海からの報告はなく, 宇治群島近海における魚類相を調査した Motomura et al. (2016) にも記録されていない. したがって, 本研究の記載標本は宇治群島からの本種の標本に基づく初めての記録であると同時に鹿児島県からの2例目の記録となる.

比較標本 ウマヅラハギ *Thamnaconus modestus*: KAUM-I. 71405, 体長 241.6 mm, 鹿児島湾, 2015年4月13日, 鹿児島市中央卸売市場魚類市場で拾う, 畑 晴陵.

■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり, 鹿児島大学総合研究博物館ボランティアと同博物館魚類分類学研究室の皆さまには適切な助言を頂いた. また, 標本の採集に際しては, かごしま水族館の山田守彦氏に多大なご協力を頂いた. 以上の方々に謹んで感謝の意を表する. 本研究は, 鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた. 本研究の一部

は笹川科学研究助成金 (28-745), JSPS 研究奨励費 (DC2: 29-6652), JSPS 科 研 費 (19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265), JSPS 研究拠点形成事業—B アジア・アフリカ学術基盤形成型, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」, 文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」, および鹿児島大学重点領域研究環境 (生物多様性プロジェクト) 学長裁量経費「奄美群島における生態系保全研究の推進」の援助を受けた。

引用文献

- 林 公義・萩原清司. 2013. カワハギ科. Pp. 1712–1721, 2236–22237. 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- Hutchins, J. B. 1977. Descriptions of three new genera and eight new species of monacanthid fishes from Australia. *Record of Western Australian Museum*, 5 (1): 3–58.
- Hutchins, J. B. 2001. Monacanthidae, Filefishes (leatherjackets). Pp. 3929–3779 in Carpenter, K. E. and Niem, V. H. eds. *FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vol. 6. Bony fishes part 4 (Labridae to Latimeriidae), estuarine crocodiles, sea turtles, sea snakes and marine mammals*. FAO, Rome.
- 池田博美・中坊徹次. 2015. 南日本太平洋沿岸の魚類. 東海大学出版部, 秦野. 597 pp.
- 鹿児島県衛生研究所. 1991. 食品部の業務概要. pp. 35–42. 鹿児島県衛生研究所 (編), 鹿児島県衛生研究所報 第 27 号. 128 pp. 鹿児島県衛生研究所, 鹿児島.
- 菅野 徹・倉田洋二・柳沢富男. 1980. 小笠原諸島の魚類相. Pp. 119–155. 東京都立大学自然環境現況調査班 (編). 小笠原諸島自然環境現況調査報告書 1. 東京都公害局, 東京.
- Matsuura, K. 1980. A revision of Japanese balistoid fishes. *Bulletin of National Science Museum, Series A (Zoology)*, 6 (1): 27–69.
- 松浦啓一. 1997. キビレカワハギ *Thamnaconus modestoides*. Pp. 700–701. 岡村 収・尼岡邦夫 (編), 山溪カラー名鑑 日本海水魚. 山と溪谷社, 東京.
- Matsuura, K. 2014. Taxonomy and systematics of tetraodontiform fishes: a review focusing primarily on progress in the period from 1980 to 2014. *Ichthyological Research*, 62 (1): 72–113.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. (<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>)
- Motomura, H., Habano, A., Arita, Y., Matsuoka, M., Furuta, K., Koeda, K., Yoshida, T., Y. Hibino, Jeong, B., Tashiro, S., Hata, H., Fukui, Y., Eguchi, K., Inaba, T., Uejo, T., Yoshiura, A., Ando, Y., Haraguchi, Y., Senou, H. and Kuriwaa, K. 2016. The ichthyofauna of the Uji Islands, East China Sea: 148 new records of fishes with notes on biogeographical implications. *Memoirs of Faculty of Fisheries, Kagoshima University*, 64: 10–34.
- 仲島淑子・松岡達郎. 2005. 漁礁に纏絡した逸失底刺網によるゴーストフィッシング死亡数と魚の蝸集に対する影響. *日本水産学会誌*, 71 (2): 178–187.
- 仲島淑子・松岡達郎. 2006. 刺網によるゴーストフィッシング: 鹿児島湾. *日本水産学会誌*, 71 (2): 178–187.
- Randall, J. E., Ida, H., Kato, K., Pyle, R. L. and Earle, J. L. 1997. Annotated checklist of the Inshore fishes of the Ogasawara Islands. *National Science Museum Monographs*, 11: 1–74, pls. 1–19.
- Senou, H., Shinohara, G., Matsuura, K., Furuse, H., Kato, S. and Kikuchi, K. 2002. Fishes of Hachijo-jima Island, Izu Islands Group, Tokyo, Japan. *Memoirs of the National Science Museum*, 38: 195–237.
- Shinohara, G., Sato, T., Aonuma, Y., Horikawa, H., Matsuura, K., Nakabo, T. and Sato, K. 2005. Annotated checklist of deep-sea fishes from the waters around the Ryukyu Islands, Japan. Deep-sea fauna and pollutants in the Nansai Islands. *National Science Museum Monographs*, 29: 385–452.
- 鈴木寿之・細川正富. 1997. 山陰但馬で採集・確認された魚類の日本海初記録種 II. I. O. P. *Diving News*, 8 (3): 2–3.
- 徳留陽一郎・川上市正. 1977. 漁場開発調査 V. P. 10. 鹿児島県水産試験場 (編), 昭和 51 年度鹿児島県水産試験場事業報告書. 鹿児島県水産試験場, 鹿児島.
- 山田和彦・工藤孝浩. 1997. 神奈川県三崎魚市場に水揚げされた魚類・VI. *神奈川自然誌資料*, 18: 73–78.
- Zama, A. and Yasuda, F. 1979. An annotated listed fishes from the Ogasawara Islands—supplement I, with zoogeographical notes on the fish fauna. *Journal of the Tokyo University of Fisheries*, 65 (2): 139–163, pls. 1–3.
- Zhong, J.-S. 2001. キビレカワハギ. P. 270. 中坊徹次・町田吉彦・山岡耕作・西田清徳 (編), 以布利 黒潮の魚. 海遊館, 大阪.